みんなの童話

ひなまつり

あやちゃんは、今日も元気いっぱい学校から帰って来ました。
「ただいま。おばあちゃん」
「ああ、お帰り」
おばあちゃんは、縁側で編み物をしていました。
「おばあちゃん今日はね。みっちゃんとかなちゃんが、おひなさまを見に来るよ」
「そうかい。草餅もできているからみんなに食べてもらおうよ」
しばらくすると、
「こんにちは！」
元気な声がしました。
「あがってよ。こっちだよ」
あやちゃんは、急いで玄関に行きました。みんなを座敷にあんないしています。
「かわいいね。このお顔」
「この人、何しているの？」
かなちゃんの弟のやす君が、五人ばやしを指さして聞きます。
「それは、五人ばやしといっておはやしをする人だよ」
「おはやしを聞く人はだあれ？」
やす君は、お姉ちゃんについてきて何でも聞きます。
「聞く人は、おひなさまとおだいりさまだよ」
やす君は、
「ふうん」
と、感心したような顔をしています。
「この小さいおままごと、かわいいね。ほんものみたいね」
おひなさまの道具を見てみっちゃんが、いいます。みんながわいわい話していると、おばあちゃんが、お茶と草餅を持ってきてくれました。
みんなは、
「いただきます」
と、草餅を食べはじめました。
にこにこと、みんなの顔を見ていたおばあちゃんは、ぽつりぽつりと、話しはじめました。
「みんなは、いい時に生まれたよ。おばあちゃんの小さかったころお国に戦があってね。毎日毎日、飛行機が飛んできて爆弾を落とすのさ」
「それで、どうなるの？」
「火事になって家は、燃えてしまう。爆弾に当たった人は、死んでしまうのさ。こわかったよ」
「それでみんなは、どうしたの？」
「田舎に知り合いがある人は、田舎へ逃げていく。でもみんなが一度に逃げようとするから、なかなかいかれなかったよ」
「おばあちゃん。その時どうしていたの？」
あやちゃんが、ききました。
「悲しかったよ。それでもやっと逃げることができた。その時には、みんな捨てて逃げた。おひなさまもね」
「おばあちゃん、悲しかったね」
「そうだよ。おひなさまのことは今でも忘れられないよ」
独り言のようにいいました。
「あれ！　大人でもおひなさまほしいの？　わたしもほしいよ」
かなちゃんが、驚き顔でいいます。
「そうだよかなちゃん。誰でも美しいものは大切に思うし、ほしいとも思うものだよ」
おばあちゃんは、話を続けます。
「大きくなっておひなさまをさがしたよ。でも、私のおひなさまは何処にもなかったよ」
「おばあちゃん。悲しかったね」
みっちゃんが、いいました。
「それがね、民族資料館（古い道具や器具が飾ってある）に飾ってあったのよ。まあ、そのときの嬉しさはなんともいえなかったね。だから、もうさがすのやめたよ」
「おばあちゃん。おひなさまにあえてよかったね」
小さいお客さまたちも、喜んでくれました。　おわり

（しろやま会員　片山　直子）